

国際化対応力の向上を目指して海外語学研修を支援

神戸大学の国際コミュニケーションセンター（SOLAC）では、2003年の発足以来、主に学部生を対象にした海外語学研修プログラム（英語・ドイツ語・フランス語・中国語）を実施しています（表参照）。神戸大学基金ではこのプログラムを継続的に支援しています。ここでは2014年度に海外語学研修に参加した4名の方に話を聞きました。

● 海外語学研修に参加した動機は？

Q 海外語学研修に参加した動機を順にお聞かせください。まずは英語の溝手さんから。

A 私は高校一年生のときにオーストリアに2週間留学したことがあるのですが、そのとき意思疎通がうまくできなくて悔しい思いをしたことがあって、もっと語学力を向上させたいと思ったのです。

● 海外語学研修に参加された小笠原さんはどうですか？

A グラーツ大学の場合は長期留学するための前準備としての語学研修という位置づけのコースです。私は文学部のドイツ文学コースの学生で10年ほどの学習歴があ

●質問に答えてくれた人：



小笠原 悠太さん
(おがわらい ゆうた 文学部3年・独語)



佐々木 萌葉さん
(ささき もえは 法学部1年・仏語)



福田 諒さん
(ふくだ りょう 工学部1年・中国語)

● 海外語学研修の成果は？

Q 現地で印象に残っているエピソードを教えてください。

A 私も一年生で、語学は半年やつだけ。それではあまりに少ないといふことで、中国語の先生が毎週水曜日に一時間、希望者向けのレッスンをしてくれました。参加した動機は、将来的に中国語に関係した仕事をしたいと思ったからです。それと、自分の目で実際の中国を見てみたいと思ったこともあります。

A 私（溝手）は、ホームステイだったので、研修が終わってホストファミリーの家に帰つてもずっとひとりで英語に立ち向かうという感じでした。大変でしたが楽しい経験でした。私（福田）は、日中関係が悪くなっていると言われる中で、日本人だからといいう理由で冷遇されたりしたことは一度もありませんでした。日中関係が悪いといつて印象は日常接する人からは感じませんでした。

のですが、オーストリア文学を今後も勉強していくかどうか確認したかったので参加しました。ある意味で長期留学のための予備体験です。

● フランス語の佐々木さんはどうですか？

A 私はフランス語を勉強し始めてまだ半年経たないうちに参加しました。最初はまったく意思疎通できなかつたのですが、徐々に何を言っているのかわかるようになりました。将来は国連など国際機関で働きたいと思ってるので、今のうちから英語以外の語学の勉強を始めておきたいと思ったからです。

A 中國語の福田さんはどうですか？

A 私（小笠原）の研修コースには世界のいろんな国から留学生が来ていましたが、英語が共通語のようになっていたのですが、英語が共通語のようになっていたのにびっくりしました。

A 私（佐々木）も、フランス語の勉強をしに行つたのに逆に英語の重要性を知りました。どこへ行っても、わからなくなつたら英語の助け舟が出てくるという感じです。



表1 2014年度 海外外国語研修実施要領

対象言語	英語	ドイツ語	フランス語	中国語
国名	アメリカ合衆国	オーストリア	フランス共和国	中華人民共和国
提携大学	ワシントン大学	グラーツ大学	リヨン・カトリック大学	北京外国语大学
学生参加人数	34名	17名	21名	6名
同行教員	Marian Wang Tim Greer	Stefan Trummer 福岡 麻子	廣田 大地	朱 春躍 高橋 康徳
授業実施期間	9月2日～9月19日	9月4日～9月26日	9月1日～9月26日	8月11日～8月29日
出発日	8月29日	9月1日	8月30日	8月7日
帰国日	9月25日	9月29日	9月30日	8月31日

表2 海外語学研修派遣人数の推移

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	合計
派遣人数	91	78	47	80	114	158	147	715

A 私（小笠原）の場合、費用全額の1割以上に相当するので大変有効で、支援があることによって活動の幅を広げるこ

とができます。
Q 私（溝手）は基金からの支援は大変大きいと思います。長期留学に比べて短期留学のほうが割高だったりするので、支援の有効性も大きくなります。

私（佐々木）は物価の高いフランスに行つましたが、それでも支援があることによつて研修に行きやすくなつたと思っています。

私（福田）は新しい国で旅費も比較的安く済みましたが、それでも支援があることによつて研修に行きやすくなつたと思っています。

私は（溝手）は物価の高いフランスに行つたので、学校以外の活動で結構費用がかさんだりしましたが、その分を支援でカバーできました。

私は（佐々木）は、長期留学に比べて短期留学のほうが割高だったりするので、支援の有効性も大きくなります。